

小學日本文典

大槻修二著

上

810.

0934s

078395-001-7

810-0934s

小学日本文典

大槻 修二 / 著

上

M14.5

DAC-2060



大槻修二著

小學日本文典



244896

浪華二書房藏

例言

我國言語ノ類別ノ建テシハ明和申二京師ノ人
 富士谷成章ガ名裝挿頭結脚ノ四種ニ分タレシ
 ヲ其始トナセリかさし抄三冊
あひ抄六冊此時江戸ニテ加
 茂真淵モ亦語意考冊一ヲ著シテ言葉遣ニ初體用
 令助ノ五轉アルトヲ説カレタリ其後伊勢ノ本
 居宣長其子春庭並ヒ出テ、詞玉緒冊七詞八衢冊二
 詞通路冊三等ノ諸書ヲ撰シ詳カニ言語ノ係結ト
 切續ト自他トヲ考ヘ定メラル若狹ノ僧義門更
 ニ其説ヲ擴メテ動詞ニ截斷未然已然連用連體

810, Q933, 3

例言

我國言語ノ類別ヲ建テシハ明和中ニ京師ノ人
 富士谷成章ガ名装挿頭結脚ノ四種ニ分タレシ
 ヲ其始トナセリかさし抄三冊
あひ抄六冊此時江戸ニテ加
 茂真淵モ亦語意考冊一ヲ著シテ言葉遣ニ初體用
 令助ノ五轉アルヲ説カレタリ其後伊勢ノ本
 居宣長其子春庭並ヒ出テ、詞玉緒冊七詞八衢冊二
 詞通路冊三等ノ諸書ヲ撰シ詳カニ言語ノ係結ト
 切續ト自他トヲ考ヘ定メラル若狹ノ僧義門更
 ニ其説ヲ擴メテ動詞ニ截斷未然已然連用連體

小ノ本ノ例言



希求ノ六變アルヲ云ヒ出サレタリ活語指南
數部アリ以上ノ諸書ハ是ヨリ後ハ數十種ノ語
共ニ刻本ニテ世ニ行ル學書アルモ大率皆此數子ノ說ニ出入附演セル
ノミ

言語ノ變轉ハ素ヨリ極リナキ者ニシテ變ノ又
變ヲ舉ケ轉ノ又夕轉ヲ載セント欲セバ其數殆
際限アル可ラズ况ヤ此書ノ如キハ小學教授ノ
用ニ供ヘントスル者ナレバ殊ニ簡略ニシテ且
要アルヲ主一トス故ニ其大綱ヲ示シテ變轉ノ
細條旁徑ハ總テコレヲ漏セリ而メ書中ナル言

語各種ノ名目ハ多ク上ニ舉ケタル先輩諸子ノ
名付ラレタル者ヲ用キル然トモ亦コレヲ轉用
假借セル事少カラス

我國ノ文典ト稱スル者ハ近歲世間ニ行ル、所
數書アリ然トモ著者各自家ノ說ヲ載セラル、
者多シ此書ト雖モ亦素ヨリ一己ノ臆說タルヲ
免レガレベシ吾等文彦常テヨリ諸學友ト謀リ
文法會ヲ開キテ討論講究スルヲ既ニ五年ニ及
ベリ故ニ其書ノ世ニ出ツルニ至リナバ必方ニ
一定ノ法則ヲ得ルヲアルヘキカ

明治十四年一月三十日

東京府平民大槻修二謹識

小學日本文典卷上

東京

大

槻修二

著



文章と書き綴るふを自ら其法式ありまれば文章と云ふ故に千萬の言葉を列ね並ぶるとも其法式は因らされど畢竟己れの意を書き顯すおとを得る能わざる者なり

文法を先つ其音聲の符徴とする所の文字を知り次は思ひを述ぶる所の言葉遣ひを悟りて後文章の法式を説くべし

はれた此文法は階級を建て、三の篇目も分つ

文字篇 假字と漢字との兩條

言語篇 名詞動詞裝詞并ニテニヲハの四條

文章篇 言葉の切續と自他と係結との三條

斯く次第を建て、文字言語の用の方を説き而

て後初めて文章の法式を知り悟るべし

○

文字篇

我が國よて遣ひ用ゐる文字は兩種あり一を假字と云ひ一を漢字と云ふ

はて人の音聲の基を清音四十七と濁音二十と

鼻音一となり去の六十八の音を重ねて言葉と

なり其言葉を列ねて文章を作るなり

假字も去の六十八の音を書き記す特徴よりして

假字のみよても言葉を列ねて我が思ふ事を書

き取るよても少くも差支ある事なり

漢字も唐土の文字よて其字の意味の我が國の

言葉の心よ叶ひたる者を取り合せて用ゐるも

あり又其字音の儘よて直ニ遣ひ用ゐるもあり

○假字の事

假字の字樣は平假字と片假字との二體有り
清音の四十七をいろも歌なり大れを平假字と
て

片假字も次の五十音圖の處は出せり

いろもよ不へと
ちりぬるをまの
よとれそつねな
らむうおのおく

やまなふこえて
あさきゆめこ
急ひもせす

去の平假字は又異なる一體あり

以路はにほ通が
おるぬはれ
おがふたまぢ

色も白へと散りぬるを

津祿那らそ 我の世誰そ常をらん

字井乃於久屋浦

けぬ古江亭 有為の奥山今日越えて

阿法起由免み志

畫玉後粉吹 淺き夢見し酔もせず

去れを色葉歌の本意にて書き列ね其下に出し
即其意味なりはれど斯くの如くも讀み
習ひ置くとへし

○濁音の事

濁音を別々字跡な一假字の肩に點を付けて去
れを分てり去の點を付くるを濁を打つと云ふ
故に同一假字なれども點の有ると無きとて
清音濁音と云ひ分つ

上の色葉歌の字が拵むの如く次の五十音

圖の處に二十字を出せり

去の濁音を清音と意味の全く變る事あり

付次沓屑落怕

知らず 知らず 大れあ 大れあ の如し

又上よりの讀み續きよて濁る事あり

山の川をなまがえ 石の橋をいしばし

下る坂をえどりばの 渡す船をわとよぬねと云ふ類なり

総へて濁音を言葉の上よあるおとあし

又半濁音と云ふ者ありはむぬほの五音よし

て又上よりの續きよ因りて濁る者なり

新版	合羽	月日	切符	隔壁	日本
邊鄙					
本復					
近邊					
蒲黄					

右の如くンとツとの下よ在る時のみなり假字

の肩よ圈を付けて其あるしとす

又濁るよえあらねども鼻音の下よ在るアイエ

才の四音をナニネノと變る者あり

恩愛を 於ん那い 延引を 江んにん

因縁を 以ん祢ん 観音を えん乃むの類

右も上より乃讀み續きよて變る事上の例の如

し但し鼻音より移る音をなれを斯くの如く變む

○鼻音の事

鼻音ヒナとはぬる音ネなり

口クチを結ムスびて鼻ハナを漏モらす故ユに片假字カタカナと云ふなり

○五十音の事

音を遣ツクひ用モチゐる法ハジメも五十音圖ゴジュウオンズに擬カタりておれを定サむへし即片假字カタカナにて

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ

タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤイユエヨ
ラリルレロ
ワヰウヱヲ

上の四十七字、イウエの三字を重ね加へて五十字とし、ナテ 豎を十行ジフギク、並べ横を五段ゴダンと定む。

ガギグゲゴ
ザジズゼゾ
ダヂヅデド
バビブベボ

右も二十の濁音にて清音と同じき用ゐる様なり

上の五十音を用ゐる法を種々あれど先づ三通の名目を能く覺へ置かへし
一つも豎の行の名なり

ア行ギキク カ行キキク サ行ギキク タ行ギキク ナ行ギキク
ハ行ギキク マ行ギキク ヤ行ギキク ラ行ギキク ワ行ギキク

おれをアイウエオをア行と、カキクケコをカ行と、まゝなり。餘を、おれは倣ふべし。
二つも段毎に横に通る名なり

アカサタナハマヤラワを ア段と云ひ
イキシチニヒミイリキを イ段と云ひ

ウクスツヌフムユルウを ウ、段と云ひ
エケセテネヘメエレエを エ、段と云ひ
オコソトノホモヨロヲを オ、段と云ふ
三つを音の出づる處の名なり

ア行ヤ行ワ行 喉音なり 喉より真直に出づる音

カ行サ行 齒音なり カを奥齒に障りサを前齒に當り

タ行ナ行ラ行 舌音なり 舌の遣ひ方を出づる音

ハ行マ行 唇音なり ハを軽く唇を動しマを重く遣ふ

去の喉齒舌唇の四音を自然の定りなれども
タ行のナツを必舌を遣ひハ行も総べて唇

を動し用みるべし

○母音の事

母音とて聲の親にしてアイウエオの五音を云ふ
去の外の諸音を皆去の五音の韻あり

カを引を アとなり シを引を イとなり

フを引を ウとなり メを引を エとなり

口を引を オとなり

去れりてアイウエオを諸音の親たる事を知るべし

○喉音の事

喉音をアワヤの三行に分るれども其本をイと
ウとの兩音又アイウエオの重り合ひとる者
なり

イの音の下にアイウエオを重ねて呼ぶ

ヤ イ ュ エ ヨ となり

ウの音にアイウエオを重ねる時

ワ ヰ ウ エ ヲ となり

右の如き根元なれどヰエヲの音に必ウイウエウオ
と呼びてイエオと同じしならぬ様云ひ分くべ
し

但イウエの三音もア行の音と同じ様よ心得
居るも差支ある事なしはれど同じき假字よ
て字形を異よせむ

○拗音の事

拗音とも二音相重り合ひとる者を云ふ上の如
く同一喉音の重りたる者よ異りて二音相合ふ
も其聲よ出づる事自ら素直ならむ
ヤユヨの三音の一段よ結び付きたるとワの音
のクの音よ合ひとるとよて合せて二十二音な
り但濁音を加ふれも三十五音となるなり

キヤ	シヤ	チヤ	ニヤ	ヒヤ	ミヤ	リヤ
キユ	シユ	チユ	ニユ	ヒユ	ミユ	リユ
キヨ	シヨ	チヨ	ニヨ	ヒヨ	ミヨ	リヨ

右の拗音又對して上の六十八音を直音と云ふ

○變音の事

音の變るゝ六の差別あり

轉音とを同ト行よて轉り變る者を云ふ

轉音	通音	約音	畧音	延音	訛音
----	----	----	----	----	----

工段のア、段又轉るを定りとす

竹林をタカハヤシ 風上をカザカミ

手綱をタヅナ 船場をフナバ

苗代をナハシロ 爪先をツマサキ

冷水をヒヤミツ 群鶴をムラツル

聲高をコワダカ

右の如く言葉の二つ重りたる時又其音を轉せども何れも言葉も悉く變る者よらば又此外も種々の轉音あり

炎を火の穂なり 螢を火垂なり

黄金をユガネと云ひ 木陰をコカゲと云ふ

白玉を シラタマ 萌黄を モヨギ

馬手を メテと呼ぶの類なり

○通音とも同段にて互に通ひ變る者を云ふ

マ行のハ行濁音も通ふを常とす

苦を トバ 黍を キビ

撰を エラブ 皇を スベラキ

紐を ヒボ 乏を トボシ

此外も

梅馬のムメムマ 春雨小雨のサメ

走をワシルの類あり

○約音とも言葉の中なる音を詰めて短ふと呼

ふ音を云ふ

六の約むるも二様あり

一つは母音の約りなり

サアリをサリと約むるをサの韻ニア音のまどなり

這参のりを入の約たりヒも半もイの韻はまどなり

二つは二音の合ひて一音も約まるなり

捺をサシアゲ 擡をモチアゲなり

シアをサとなり チアをタとなる

此方彼方をコノカタアノカタなり

共ニノアの約ミタと成るなり

○ 畧音とを言葉の中なる音を省き去りても同

いき意味なるなり

文字をモジ

東をヒカシ

未をマダ

宣タマフをノタマフ

春柳青柳のヤギの類なり

○ 延音とを言葉の中なる音を延して同一意味

なる者を云ふ

冠をカウムリ

而シテをシカウシテ

設をマウケ

最負をヒイキ

四時をシイジ

詩歌をシイカの類なり

○ 訛音とを聲の云ひ訛りなり

一つヨイとウとの母音の韻のみよなる者

なり

開キテをヒライテ

久シキをヒサシイ

無シ無キをナイ

啄ムをツイバム

双をヤイバ

松明をタイマツ

能クをヨウ

疾クをトウ

大キクをオホキウ

斯クをカウの類なり

二つヨイと詰まるとンと跳ぬると又ウと

訛ナまるとなり

知チリテをシツテ 立タチテをタツテ

向ムヒタリをムカツタリ

住スミテをスンデ 死シニタルをシンダル

懇コンをネンゴロ 殆ホトをホトンド

橐籥トウゴウを吹フ革カなり 笄カギを髮カミ搔カキなり

商人シヤジンをアキウド又アキンドと云ふ類

三つ又音を直ナ詰ツめると又鼻ヒ音オを加クへ

とるとの訛ナなり

全マをマツタク 真直マをマツスグ

專モをモツハラ 尤モをモツトモ
牙キをキンバ 鷲トをトシビ
真中マをマンナカノ類

○漢字の事

漢字カンジを唐土トウツの文字モンジなり常ツネニカラモジと呼ヨぶ者モノ
よしてこれを讀ヨむ音オンと訓シとの差別シヤバツあり
音オンとも其字シの聲コエよして即ツち唐土トウツの言葉コトバなり
れ漢音カンオン呉音ゴオンの兩様リウヤウあり又其字シよ就ツきて其用シヨウ
ある意味イミを字義ジギと云ふ
訓シとも我ワの國クニの言葉コトバの心ココロと其字義シジギと相合アふ者モノ

とを取りて直^ナ其^{コト}言^ハ葉^ノの文字とす常^ニヨミと云^フ
漢^ノ音^ヲ唐^ノ土^ノ北^ノ方^ノの音^ヲなり吳^ノ音^ヲ南^ノ方^ノの音^ヲなり
其^ノ字^ノ義^ニよ^リ變^ハる^{コト}事^ヲなり然^レれども中^ニよ^リ字^ノ義^ノ
異^ナる^{コト}が為^ニ一^ノ字^ニよ^リて兩^ノ音^ヲを云^フひ分^クる事^ナり

○音の事

音^ニ開^キ音^ハ合^フ音^{アリ}又^チ直^ニ音^ハ拗^ニ音^{アリ}
開^キ音^ヲ口^ヲを開^キて呼^フ聲^ニよ^リて合^フ音^ヲ口^ヲを合^ス
せて呼^フ者^ナり清^キ音^ハ濁^ク音^ニ共^ニ同^ト

開^キ音^ヲア、段^イ、段^エ、段^ウより出^イづる音^ヲを云^フ
除^ク合^フ音^ヲをウ、段^オ、段^カ及^チひ口^ヲ行^クより生^シずる者^ヲを云^フ
行^ハ但^シも

孝^{コウ}と章^{シヤウ}とを開^キ音^ニよ^リて公^{コウ}と松^{シヤウ}とハ合^フ音^ナり
直^{チキ}音^ヲも口^ヲも素^ソ直^{チキ}なる聲^ヲなり拗^ニ音^ニとも素^ソ直^{チキ}なる
ぬ音^ヲなり亦^モ兩^ノ音^ニ共^ニ清^キ濁^クあり
加^カ佐^サも直^{チキ}音^ニよ^リて果^{クワ}沙^{シャ}も拗^ニ音^ナり

○韻の事

韻^ヲもヒツキと讀^ム諸^ノ音^ノの下^ニ付^ツきて其^ノ韻^ヲを添^フ
ふる者^ナりおれ^ニ長^キ聲^ハ短^キ聲^ハの差^ハ別^ニあり

長聲とを延びとる韻を云ふ ウイキンムの五韻なり
短聲とを詰りとる者を云ふ フツクチキの五韻なり

應 愛 類 新 金 直音の長聲なり

長 中 綾 觀 回 切音の長聲なり

邑 札 角 吉 石 直音の短聲なり

百 宿 直 郭 活 切音の短聲なり

右の諸音も次々各音の漢字を一字づゝ出して

其大略を示せり

○音便の事

音便とて讀み續きと因りて自ら字音の其本音

を變ずる者を云ふ決いて一字づゝ離して讀
む時と出づる者ららば
即ち上の濁音の下と舉げたる三例おれなり

○各音の漢字

漢字の音を直音切音と長短の兩韻を添ふれを
一千零二十音となるおれと直切の單音を加ふ
れハ惣計一千一百二十二音なり然れとも缺く
る者あり韻を受をさる者あり即ち各音の區別
を建て、漢字を列ぬる事左の如し
單音とて長短の諸韻を添へざる者を云ふ

字傍に付くる者も片假字ヲ漢音と一平假
字を呉音とす又字の下に添ふる假字を訓を
り二義ある者も共に出す訓を欠く者も字
音みて熟語を擧ぐ
五十音圖に依りて各音を列ぬ一段全くと無
き者も去れを省き一段の中より欠くる者
おれど□を設けて文字を缺く
漢字も通俗の文字を擧ぐ然れとも音に就
きて字を求むる者なれど見慣れぬ文字を
出すも止む事を得ざるなり又各音を列ぬ

る為よ一字を數處に出すことあり

○直音の單音

多 <small>タ</small> かひり	左 <small>サ</small> ひさう	加 <small>カ</small> くま	阿 <small>ア</small> くま
知 <small>チ</small> しる	志 <small>シ</small> しる	期 <small>キ</small> かきり	以 <small>イ</small> しめて
都 <small>ツ</small> みやこ	素 <small>ソ</small> 素袍	九 <small>ク</small> こつ	宇 <small>ウ</small> なり
□ テ	世 <small>セ</small> せい	家 <small>カ</small> かへ	衣 <small>エ</small> えも
土 <small>ツ</small> つち	祖 <small>ソ</small> 祖父	古 <small>コ</small> ふる	於 <small>オ</small> おいて

那 ナ

二 ニ

奴 ヌ

禰 ネ

□

波 ハ

比 ヒ

不 フ

□

保 ホ

麻 マ

味 ミ

無 ム

馮 ホウ

茂 モ

也 ヤ

異 イ

由 ユ

依 イ

與 ヨ

羅 ラ

里 リ

流 リウ

□

路 ロ

和 ワ

為 ヰ

雨 ウ

會 ヱ

汗 ア

雅 ガ

義 ギ

愚 ウ

下 カ

五 ゴ

坐 ザ

自 ジ

數 ズ

是 ゼ

□

馱 ダ

治 ヂ

圖 ヅ

□

度 ド

婆 バ

美 ビ

武 ブ

□

暮 ボ

以上七十音同音の者三音と欠音七つとを除くは六十

○拗音の單音

<input type="checkbox"/> <small>リ</small>	<input type="checkbox"/> <small>キ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ソ</small>	脚 <small>キヤ</small> 脚絆
<input type="checkbox"/> <small>ギ</small>	朱 <small>シユ</small> らり	<input type="checkbox"/> <small>ギ</small>	沙 <small>シヤ</small> すを
樹 <small>ジュ</small> き	注 <small>チュ</small> そい	蛇 <small>ジャ</small> へび	茶 <small>チャ</small> 煎茶 抹茶
住 <small>ヂ</small> まひ	<input type="checkbox"/> <small>ニ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ナ</small>	若 <small>ニヤ</small> 巖若
<input type="checkbox"/> <small>ビ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ヒ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ビヤ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ヒヤ</small>
	<input type="checkbox"/> <small>ミ</small>		<input type="checkbox"/> <small>ミヤ</small>

居 <small>キ</small> ま	旅 <small>リ</small> たび	過 <small>クワ</small> とく
書 <small>シヨ</small> かく	魚 <small>ギヨ</small> うを	卧 <small>グワ</small> ふを
著 <small>チヨ</small> あふも	助 <small>ジヨ</small> たすく	
女 <small>ニョ</small> をんな	除 <small>ヂヨ</small> のぞく	
<input type="checkbox"/> <small>ヒヨ</small>	<input type="checkbox"/> <small>ビヨ</small>	
<input type="checkbox"/> <small>ミヨ</small>		

以上三十五音缺くる者十七音を除くは十九音なり

六の直拗の單音合せて一百零二音なり六れも字音の基なりを文字の有無に係らば擧ぐれども以下其欠くる者も大率省きて載せし

○直音の長聲

ウ韻の文字

櫻 アウ
はなごう

有 イウ
あり

□

要 エウ
かぎの

鷗 オウ
かもめ

教 カウ
をく

久 イウ
ひさし

空 クウ
むら

橋 ケウ
け

功 コウ
いさを

號 ガウ
なま

牛 ギウ
うし

寓 グウ
あき

曉 ゲウ
あつこ

降 カウ
くだ

草 サウ
くさ

洲 シウ
しゅう

趨 スウ
しゅう

召 ヒウ
めす

層 ソウ
かさ

象 ザウ
きさ

獸 ジウ
けもの

□

擾 ゼウ
さわ

增 ゾウ
ます

桃 タウ
もも

籌 チウ
ちゆう

通 ツウ
とほ

朝 テウ
あさ

東 トウ
ひがし

堂 ダウ
だう

柔 ジウ
なやま

□

條 テウ
じょう

同 ドウ
おな

腦 ノウ
なう

乳 ニウ
ちち

□

尿 ネウ
ちん

農 ノウ
のう
農氏

方 ハウ
かた

彪 ヒウ
ひょう

風 フウ
ふう

表 ヘウ
へい

朋 ホウ
とも

暴 バウ

繆 ビウ
細繆

苗 ビウ

丰 ボウ

毛 マウ

妙 ノウ

蒙 モウ

陽 ヤウ

陰陽

右 イウ

右

勇 ユウ

いさむ

幼 ユウ

幼

用 ユウ

もちふ

老 ロウ

おい

柳 リウ

やなぎ

料 レウ

代料
料理

樓 ロウ

たうむ

王 ワウ

おほきみ

翁 フウ

おきな

以上ウ韻十四行ニ亘りて皆あり但十一字を欠ク
イ韻の文字

愛 アイ

めづ

榮 エイ

さうえ

開 カイ

ひらく

計 ケイ

けり

害 ガイ

わざはひ

藝 ゲイ

技藝

画 サイ

は

清 セイ

きよ

在 ザイ

在り

税 ゼイ

租税

帶 タイ

おび

帝 テイ

みかど

大 ダイ

おほき

泥 ダイ

どろ

内 ナイ

うち

寧 ネイ

やほい

拜 ハイ

まがむ

并 ヘイ

ならぶ

買 バイ

かよ

米 バイ

こめ

每 マイ

ま

名 メイ

な

來 ライ

きこふ

禮 レイ

礼儀

隈 ソイ
とま
衛 エイ
まもる

以上イ韻もウイオの三段及びハヤ行を受^ウせず

斗韻の文字

推 ス斗
かき
隨 ズ斗
たごぶ
追 ツ斗
おふ
類 ル斗
たぐひ
遺 ユ斗
のほ
茴 ウ斗
茴香

以上斗韻ノウ段を受^ウる定^ソをなれどもスツルエウの五音のミ其中ノもエ斗も遺言遺物又由緒唯^ユ一唯^ユ摩等の音韻ある乃みうてウ斗も茴^ウ香乃みたり又^キ貴^キ歸^キの文字^モ斗^ジの音韻あり通^ツ俗^ダを^ウね^バ記^ル

さび

ン韻の文字

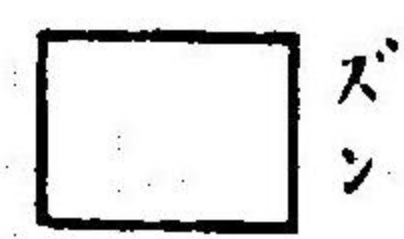
安 アン
やん
因 イン
よも
運 ウン
天運
縁 エン
よも
恩 オン
國恩

寒 カン
さむ
近 キン
ちか
君 クン
きみ
權 ケン
氏權
權官
昏 コン
とれ

雁 ガン
かり
銀 ギン
あまね
軍 グン
いくま
限 ゲン
かぎり
言 ゴン
ごん

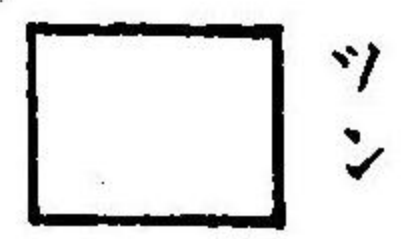
山 サン
やま
神 シン
かみ
寸 スン
すん
千 セン
ち
村 ソン
むら

殘 のこり 仁 に徳



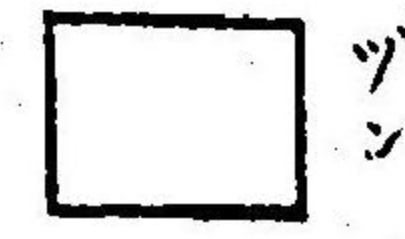
善 よ 存 存生 所存

端 はし 陳 ちん



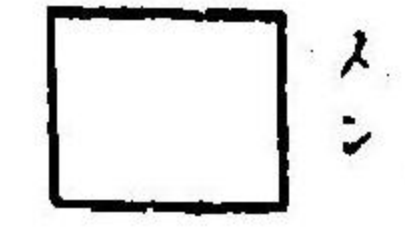
天 てん 豚 とん

段 だん 塵 ちん



殿 てん 鈍 どん

難 なん 人 にん



年 ねん

半 はん 貧 ひん

粉 ふん

邊 へん 本 ほん

番 ばん 憫 びん

分 ぶん

勉 べん 盆 ぼん

万 まん 民 みん



面 めん 門 もん

亂 らん 隣 りん



連 れん 論 ろん

灣 わん 負 ふ

雲 ウン

遠 えん 温 ウン

以上ノ類を諸行皆らまとも但ヤ行を受々す且ウ
段多く欠く

六の韻も舌内聲と云ひ其本音も又韻なり故に舌
より止むる者なれど此名あり今も鼻音より移して呼
ひ出せば韻に定めつ

ム韻の文字

諳 アム

飲 イム

塩 エム

音 オム

甘 カム

金 キム

兼 ケム

今 コム

岩 ガム

吟 ギム

減 ゲム

嚴 ガム

三 サム

心 シム

潜 セム

暫 ザム

甚 ジム

漸 ジム

淡 タム

賃 チム

點 テム

貧 トム

談 タム

尋 ガム

曇 トム

南 ナム

任 ニム

念 ネム

凡 ハム カシモ
品 ヒム ミヤ
泛 ハム ウラフ
犯 ハム カウサ

藍 ラム ウカ
林 リン ケン
廣 レム カク直
 ラム

以上ム韻もヤ行ワ行并ハウ段ナ一才段を受ウとク者も皆呉音ゴなりハ行の濁音ダをボムの一音イ乃ニ故ニ清濁キを同行ド列ラぬ
マ行もマムミムツの文字ハもトも通俗ツなりクねも省ケまキ
つ
六のム韻も唇内聲シと云ふ唇シを結ムびて出イ音マなり

拗音の長聲

ウ韻の文字

京 キヤウ ミヤコ
將 シヤウ 大将
長 チャウ チヤウ
評 ヒヤウ 評論
明 ミヤウ メイ
良 リヤウ リヤウ

行 ギヤウ カウ
上 ジヤウ ウ
丈 ガヤウ ナヤ
病 ビヤウ ヘイ

宮 キユウ ミヤ
終 シユウ ミヤ
中 チュウ ナヤ
 ヒユウ
 ミユウ
隆 リユウ ナヤ

ギユウ
充 ジュウ ミツ
重 ヂユウ カサネ
 ビユウ

共 ^{トヨウ} _{とも} 勝 ^{シヨウ} _{うつ} 懲 ^{チヨウ} _{こらへ} 氷 ^{ヒヨウ} _{こり} 陵 ^{リヨウ} _{かり}

凝 ^{ギヤウ} _{こも} 乘 ^{ジヨウ} _{のり} 濃 ^{チヨウ} _{こし} ^{ビヨウ} _{こり}

光 ^{クワウ} _{ひかり}

以上ウ韻をニヤウニユウニヨウの三音を

イ韻ン韻の文字

回 ^{クワイ} _{めぐり} 外 ^{ガイ} _{そと} 觀 ^{クワン} _{みる} 願 ^{ガン} _{ねがふ}

以上イ韻ン韻をクワウより受くる乃至
総へて拗音をキムノ兩韻を受くる

○直音の短聲

フ韻の文字

鴨 ^{アツ} _{かも} 邑 ^{イフ} _{むら} 葉 ^{エフ} _は 悒 ^{イフ} _{あふ}

甲 ^{カフ} _{あつ} 急 ^{キフ} _{いそぐ} 協 ^{ケフ} _{かきあ} 怯 ^{ケフ} _{おそ}

蛤 ^{ガフ} _{たまご} 及 ^{ギフ} _{およ} 業 ^{ゲフ} _{わざ} 劫 ^{ケフ} _{おびやう}

蠟 <small>ラフ</small> 蠟燭	法 <small>ハフ</small> 乃り	納 <small>ナフ</small> とまむ	答 <small>タフ</small> こたへ	挿 <small>サフ</small> はさむ
立 <small>リフ</small> とつ	<input type="checkbox"/>	入 <small>ニフ</small> いり	螫 <small>チフ</small> 螫居	習 <small>シフ</small> なまふ
獵 <small>レフ</small> かり	<input type="checkbox"/>	捻 <small>ネフ</small> ひねる	蝶 <small>テフ</small> 胡蝶	涉 <small>セフ</small> せつ
拉 <small>ラフ</small> ひき	<input type="checkbox"/>	納 <small>ナフ</small> のふ	納 <small>トフ</small> 出納	<input type="checkbox"/>
	乏 <small>ハフ</small> とせ		帖 <small>テフ</small> 書帖	雜 <small>ザフ</small> 雜人
				十 <small>ジフ</small> と

以上フ韻もウ、段及ビヤ行ワ行を受ケずハ行をハフの音らる乃とオ、段を受ケる者も皆異音なり濁音もカ行の外も諸行甚と少し故に清音の下に舉ぐ

ツ韻の文字

合 <small>ガツ</small> 合掌	葛 <small>カツ</small> くげ	厩 <small>アツ</small> かい	逸 <small>イツ</small> 秀逸 隠逸	麴 <small>ウツ</small> 樽陶 繁麴	悦 <small>エツ</small> よろこぶ	乙 <small>オツ</small> 甲乙
駢 <small>ギツ</small> 驚鳴き	結 <small>キツ</small> むすぶ	屈 <small>クツ</small> かむ	缺 <small>ケツ</small> か	骨 <small>コツ</small> ほね		
<input type="checkbox"/>						
月 <small>ゲツ</small> つき	元 <small>ゴツ</small> 突元					

察 サツ 推察 檢察
失 シツ 失
節 セツ 節
卒 ソツ 卒去 士卒

雜 ザツ 雜
實 ジツ 實
舌 ゼツ 舌
突 トツ 突

達 タツ 通達 達者
帙 チツ 書帙
鍊 テツ 鍊
突 トツ 突

脫 ダツ ぬく
昵 ヂツ きこむ
捏 デツ 捏
訥 トツ 訥 辯

納 ナツ 納得
日 ニツ 日本
熱 ネツ 熱
訥 トツ 訥

髮 ハツ かみ
筆 ヒツ 筆
沸 フツ 沸
擊 ヘツ 擊
發 ハツ 發 發起

伐 バツ 伐
佛 ブツ 佛
別 ベツ 別
沒 ボツ 沒 沈沒

末 マツ 末
密 ミツ 細密 秘密
滅 メツ 滅 寂滅
物 ブツ 物

粹 ラツ 粹 粹
律 リツ 律 法律
列 レツ 列
越 エツ 越

幹 カン 幹 旋
聿 キツ 聿 迹
蔚 ウツ 蔚 通
日 ニツ 日
越 エツ 越

等トオノ...

以上ツ韻をヤ行のみを受をず且ウ段甚と少し

ク韻の文字

惡アク 育イク 億オク

角カク 菊キク 谷コク 學ガク

昨サク 肅シク 速ソク 石ガク 塾ジク

宅タク 逐チク 讀トク 濁ダク 軸チク 獨ドク

諾ナク 肉ニク 釋ノク

薄ハク 福フク 北ホク 瀑バク 服フク 僕ボク

幕マク 木モク

藥ヤク 鬻イク 欲ヨク

樂ラク 陸リク 六ロク 或ワク 屋ヲク

小一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八

以上ク韻をウ、段工、段を受たざれともハ行乃至ヒクを以てフクフク

キ韻の文字

渴 ^{カチ} 消渴
月 ^{ガチ} 正月
達 ^{タチ} 友達
八 ^{ハチ} ヤフ
撥 ^{バチ} 太鼓の撥
埒 ^{ラチ} 不埒

一 ^{イチ} 一人
吉 ^{キチ} 吉日
質 ^{シチ} 質物
日 ^{ニチ} 日限
筆 ^{ヒチ} 筆葉
律 ^{リチ} 律義

血 ^{ケチ} 血縁
節 ^{セチ} 節會
別 ^{ベチ} 別義
越 ^{フチ} 越度
越 ^{エチ} 越前

以上キ韻を皆ツの轉音なり

キ韻の文字

式 ^{シキ} 礼式
食 ^{シキ} 食
直 ^{シキ} 直
足 ^{シキ} 一足
力 ^{シキ} 力
域 ^{シキ} 區域

益 ^{エキ} 益
激 ^{ゲキ} 激流
夕 ^{セキ} 夕
敵 ^{テキ} 敵對
溺 ^{ダキ} 溺
癖 ^{ヘキ} 癖

覓 ^{ベキ} 覓
歷 ^{レキ} 經歷

以上キ韻をイ、段工、段乃ミを受く但イ、段を皆呉音ニ
して工段を漢音ナリ

○拗音の短聲

ク韻の文字

却 キョク
却 きやく

尺 セキ
尺 せき

嫡 チヤク
嫡 ちやく
嫡子

若 ニヤク
若 にやく
老若

百 ヒヤク
百 ひやく

脈 ミヤク
脈 みやく
山脈 脈絡

畧 リヤク
畧 りやく

逆 ギャク
逆 ぎやく

弱 ジヤク
弱 じやく
弱し

着 チヤク
着 ちやく
執着 貪着

白 ハク
白 はく
白 びやく
白 はく

麴 キョク
麴 きョク

宿 シヨク
宿 しヨク
宿 やど

蓄 チヨク
蓄 ちヨク
蓄 たくふ

陸 リョク
陸 りョク
大陸 海陸

熟 ジュク
熟 じョク
熟 じゆ

竺 チヨク
竺 ちヨク
天竺

曲 キョク
曲 きョク

職 シヨク
職 しヨク
職業

敕 チヨク
敕 ちヨク
敕 みことり

□ ニヨク

逼 ヒヨク
逼 ひヨク
逼 せまら

□ ミヨク

緑 リョク
緑 りョク
緑 みどり

玉 ゴヨク
玉 たま

辱 ジヨク
辱 じヨク
辱 はぢ

匿 ガヨク
匿 かくる

□

郭 クワク
郭 くわ

以上ク韻をニヒュニヨシヨの五音を受くることなし

ツ韻の文字

出 シュツ
出 いづ

黜 チユツ
黜 ちゆつ

術 ジュツ
術 じゆつ
學術

怵 チユツ
怵 ちゆつ

活 クワツ
活 くわつ

月 グワツ
月 ぐわつ

以上ツ韻をシユ、チユ、クワの三音を受くる事なし
総て拗音をフチキの三韻を受くる事なし

言語篇

○言語四種の事

言語とも即ち言葉なり又語の字も詞の字も共
 コトバと讀むなり
 言葉を我が心よ思ふまゝを云ひ述べて其意を
 通さる者なり
 言葉を一音より五音までを定數とを又二言の
 重なりて一語となる者も六音七音もあるなり
 言葉の數を數十萬のれど其部類を分たれを四
 種なり

小引 卷之五

名詞 総べての物事の名目よて其物又就き

動詞 其事又取りておれを呼ぶ名なり
物事の仕技と有様とを示す者として

装詞 其言葉の末の動き變る者を云ふ
名詞動詞又付き添ひて其物其事の形

テニヲハ 総べての言葉を受けて其言葉の居場
と様とを装ひ現す者を云ふ
處と持前と向きとを定むる者なり

のテニヲハ又當つる漢字をこれ假
の辭の字をよの文字と定む故に篇中

○名詞の事

名詞 物名事名指名數名代名の五種あり

物名 天文地理人獸鳥魚虫介艸木金石より家

屋器具衣服飲食等の諸品の名なり

事名 定りたる物を呼ぶよらに其事柄又就

きて其事の名目となる者なり又動詞の仕

技と有様とを其儘に名目とせよ者なり

指名 其物其事を指す名目よてアレカレソ

レコレの類をれえアカソコとも云ふ

數名も一十百千萬の負數の名なり又尺の名目

杵目秤目の量方の名なり

代名も上の四の名より代りて其名代を勤むる者

○物名の事

人の目に見ゆる物も數限りも無き程數多かれ
どふれを分るる時を天造人造の兩種なり

天造物の名

但し字音にて用ゐる者も片假字を付け
言葉に平假字とす以下皆をこれと同一

日 月 星 雲 雨 雪

風 霜 露 虹
以上天文

海 陸 山 川 湖 港

島 崎 原 野
以上地理

手 足 頭 胴 父 子

兄リョウ

弟ケイ

姉シ

妹イモ

以上も人体人倫

馬ウマ

犬イヌ

雞トリ

鴉カラス

鯛タイ

鯉コイ

蛙カエル

蛇ヘビ

蜂ハチ

蛇オビ

以上動物

松マツ

杉スギ

檜ヒノキ

檜ヒノキ

梅ウメ

櫻サクラ

竹タケ

菊キク

稻コメ

麻アサ

以上植物

金オウゴン

銀ギン

銅ドウ

鐵テツ

錫シユ

鉛エン

土ツチ

砂スナ

石イシ

塩シホ

以上礦物

以上八種を皆天然自然に生じたる者かれハ天造物と云ふ
人造物の名

家イヘ

樓ロウ

堂ドウ

門モン

戸カド

軒ケン

窓マド

壁カベ

柱スツバ

礎イソ

以上家屋

衣おんも 帶おび 帽バウ 袴そりま 筆ふで 墨すみ

鍋なべ 釜かま 針はり 鋏はさみ 以上衣服器財

飯いひ 汁じゆ 酒さけ 茶ちや 飴あめ 肴さかな

肉にく 菓くわいもの 麵めん 乳ちゆう 以上飲食

○專名の事
以上諸物も人の手にて作り出せし物なり故に人造物と云

人のまゝおとそ様々ゆり先づ其場處を云ふ事と仕技を云ふおとそ有様を云ふと三種なり

上かみ 下しも 前まへ 後うしろ 左ひだり 右みぎ

中ちゆう 間あひ 内うち 外そと 以上其場處を云ふ者

勝かち 負まぢ 起おこ 居い 考かんが 定さだめ

悦よろこ 悔くい 耻はぢ 譽ほまれ 以上其仕技を云ふ
動詞の用言なり

以上共々入る語也

爾 爾

入るは能なり
確合をなしては能く

爾 爾

入るは能なり
疑ひて入るは能なり

爾 爾

入るは能なり
自の解するは能なり

爾 爾 也

入るは能なり

何 幾

時と數と又物事を疑ひて
指し問ふ者

○數名の事

一	二	三	四	五	六	七
八	九	十	百	千	萬	億

以上數字も又装詞となす者なり其處に記せり

○代名の事

代名とは総ての名に代りて直に其物事の名代となす者を云ふ

者事所時

此の四の言葉も其指す物も代りて物事又時場處の名と
なる者あり

○動詞の事

動詞も言葉の末の動く時より従ひて云ひ切ら言
葉となると他の言葉の續くとの働きあり
動詞も三種に分てり

作用言 略して用言と云ふも云ふ

形状言 略して形言とも云ふ

脚結言 略して脚言とも云ふ

右の三種の言葉も其用ある所の意味を異なれ
ども言葉の末の動き變る様も同じれども總べ
て動詞と云ふ

○作用言の事

作用言も物事の働きたと仕技とを現す者よりて立
つ行く問ふ重ね等の言葉なり
用言も正語と俗語との兩種あり正語とも言葉

の基^キて正^タしき者^{モノ}なり俗語^{ソコゴ}とて世間^{セケン}一^{イツ}体^{テイ}用^{ヨウ}
 める通俗^{ソコフク}の言葉^{コトバ}なり
 おの用言^{ヨウゴン}の働^{ハたら}き動^{ウご}とも第一^{ダイイチ}轉^{テン}より第八^{ダイハツ}轉^{テン}ある
 たり次^{ツギ}は其例^{シヨレイ}を舉^アぐ
 又^{マタ}この用言^{ヨウゴン}を時刻^{シヨク}を云^イひ現^アすことあり時^シ刻^{コク}
 とて未^ミだ來^キぬ先^{サキ}を未^ミ來^{ライ}と云^イひ今^{イマ}眼^メの前^{マエ}なる事^{コト}
 を現^ア在^{ゾウ}と云^イひ既^スに過^スぎ去^サりし後^{ノチ}なる事^{コト}を過^ス去^サ
 と云^イふ言^{コト}の時刻^{シヨク}の事^{コト}も脚^{キョク}
 又^{マタ}言葉^{コトバ}は自^ジ使^シと云^イふ事^{コト}あり假^カ令^{レイ}へむ歸^カル分^{ブン}ル
 も自然^{シゼン}の働^{ハたら}きよして返^カス分^{ブン}クも他^タより使^{ツカ}ひ働^{ハたら}

らも者^{モノ}なり 自^ジ使^シのこ^コとを 文章^{ブツウ}篇^{ヘン}に記^キす

用言の差別

正^チ語^ゴは四^ヨ段^{ダン}と二^ニ段^{ダン}と一^{イチ}言^{ゴン}との三^{サン}種^{シュ}あり俗語^{ソコゴ}は
 二^ニ段^{ダン}なりして一^{イチ}段^{ダン}の用言^{ヨウゴン}あり俗語^{ソコゴ}の用言^{ヨウゴン}も
 四^ヨ段^{ダン}の働^{ハたら}きとも五^ゴ十^{ジュウ}音^{オン}の一^{イチ}段^{ダン}より四^ヨ段^{ダン}まで
 轉^{クワ}り動^{ウご}え者^{モノ}よして即^{ツキ}ちア、段^{ダン}イ、段^{ダン}ウ、段^{ダン}エ、段^{ダン}の四^ヨ
 段^{ダン}なり
 おの四^ヨ段^{ダン}の言葉^{コトバ}を喉^{ノド}音^{オン}三^{サン}行^{ギョウ}を除^クきて其^{ソノ}他^タの七^{シチ}
 行^{ギョウ}を皆^{みな}アミ又^{マタ}ラ行^{ギョウ}乃^ノみよて働^{ハたら}く一^{イツ}種^{シュ}の變^{ヘン}格^{カク}
 あり即^{ツキ}ち有^{アル}りといふ言葉^{コトバ}を總^{ソウ}べての言葉^{コトバ}も

フ又と一言ヲて働ハツラたり
 三音一言を來為の兩語ニクゴなり一イツもユキクと働ハツラき
 一イツもセシスと働ハツラく共トモ五ゴ轉テンまでの用言ヨウゲンよりして
 六轉七轉ロクテンシチテンを一段イチダンと同じオナと八轉ハツテンをコとセとヤわ
 ヲを添ツふる者モとす又マのセシスモ字音ジオンより添ツひ
 て用言ヨウゲンの働ハツラきをさーむる者モなり脚結言キョウケツゲンの處トコロより
 記シせり

○用言八轉の事

用言ヨウゲンも八ハ通トウりニ轉テンり變カりて一イツ轉テン毎ニ意味イミを異ヒ
 する者モなり其ソノ異ヒなる様サマを切キるニ詞ジと續ツくニ詞ジ

と又も脚言キョウゲンとテニヲハとニ依ヨりて時刻ジコクを現アす
 等トウなり其ソノ八ハ轉テン左サの如ゴトし

第一轉 ズデンバハ杯ハの言葉コトを添ツへて物事モノゴトを

消ケし無ナくすニのト未ミ來ライを示シる者モと

なり

第二轉 テキツ又杯ハの言葉コトを添ツへて過去カクゴを

現アす者

第三轉 假カニ切キるニ詞ジとナり又動詞ドウジも名ナ

詞ジも續ツき又事名コトナともナる

第四轉 云イひ切キりて結ムスぶ詞ジ即スガち現ア在ガイなり

第五轉

ベシマシナリラシ杯ノ脚言を添へて種々の働きを示す者

第六轉

名詞を續く詞又種々の脚言及びテ

第七轉

ニヲハム添ふる者
過去を押し量り定むる詞にしてバ
ドの辭を添ふ

第八轉

以下を毎轉は五六語づゝを擧げて其働き様を示せり
カクセヨと令する詞又頼み希ふ詞

○第一轉

立とず

來らで

四段

過ぎん

攀ぢぢ

下二段

開々ぢ

止めん

下二段

見ぬ

蹴ず

一言

寐で

歴じ

同二音

來コまシ

為セぬ

同三音

ヨダシ 四段もア、段乃みりても言葉コトバをなすぬ者モノと云

○第二轉

書カまテ

入イりタり

四段

編アまタり

旧フりヌ

上二段

亂ミダれツ

定サダめキ

下二段

似ニたシ

居イて

一音

得エぬ

歴ヒつ

同二音

來キ々リ

為シ々リ

同三音

○第三轉

川カハをワタりヤマをヤマ越コす

酒サケをノ飲ノみサカチ有クをク食クふク 四段

心ココロ悔クハ世ヨ耻ハづ 上二段

馬ウマを馳ハせ舟フネを泛ウカぶ 下二段

兵ヘイを率ヒキる矢ヤを射イる

一言 但率を引居の兩語にて
あの一言之用言なり

功コウを歷ハ志コソクを得ウ

二音一言

業ワザを為シ時トキを來ク

三音一言

上も假カミふ切カリる詞コトとなり下も正シしく結ムスひ切キる詞コトなり

問トひ正タシす

引ヒき入イる

四段

強シひ讒シヨつ

怕オぢ懲コる

上二段

傳ツタへ弘ヒロむ

飢ウゑ疲ツカる

下二段

鑄イ直ナホす

蹴ケ落オトす

一言

經ヘ廻メる

寐ネ過スぐ

二音一言

為シ習ナラふ

來キ懸カる

三音一言

以上動詞は續く

入日 イリヒ

待人 マチビト

行道 ユキミチ

四段

朽木 クチキ

下坂 オリサカ

落水 オチミツ

上二段

定書 サダメガキ

譽詞 ホメコトバ

尋物 タツネモノ

下二段

似顔 ニガホ

綜麻 ハソ

干瀉 ヒカタ

一言

寐言 ネゴト

得物 エモノ

仕技 シワザ

仕む為なり

以上名詞は續く

祝 イハヒ

富 トミ

問 トヒ

笑 ワラヒ

四段

恨 ウラミ

憂 ウレヒ

悔 クイ

戀 コヒ

上二段

考 カンガヘ

教 ヲシヘ

咎 トカメ

助 タスケ

下二段

上着 ウハギ

物見 モノミ

潮干 シホヒ

一言 他の言葉を一添へて示す

晝寐 ヒルネ

心得 ココロエ

往來 ユキ

以上名詞となる者

○第四轉

申す マコフ

惜む ヲシ

死ぬ シ

四段

盡く ツク

忍ぶ シノブ

辭む イナ

上二段

受く ウケ

答ふ コタヘ

始む ハジメ

下二段

見る ミル

射る イ

居る イ

一言

得 ウケ

歴 ツ

寐 ス

同二音

來 ク

為 ス

同三音

○第五轉

劣ワトるクりー

云イふめるー

四段

疎ウトむなりー

報ホウゆづー

上二段

流ナガるめるー

背ソムくとるー

下二段

似ニるらん

着キるなりー

一言

得ウべー

寐ヌまど

來クまじ

為スべし

○第六轉

通カヨふ路

濁ニゴる水

生オふ草

落オつる瀧

開ヒラくる世

教ヲシふる書

簸ヒるモミ 粉コ

般キるフネ 舟フネ

寐ヌるトキ 時トキ

得ウるミチ 道ミチ

來クるヒト 人ヒト

為スるワザ 技ワザ

以上も名詞、續く言葉

同二音

同二音

云イふコト とし

問トふコト まで

耻ハづクるナリ

悔クあルるナリ

尋タツぬルより

榮サカあルるナリ

干ヒるまで

見ミるや

寐ヌるまで

歴フるまで

來クるかな

為スるナリ

六の六轉を直^{ネチ}受^ウくる辭^{テラハ}もゾガハモニヲ
ヨカ杯^{ハス}総^スべて其間^{ソノマ}は名詞^{イシ}又^マ代名詞^{ダイイシ}のあ
る者^{モノ}と悟^{サト}るべし

○第七轉

救^{スク}へむ

照^{テラ}せど

引^ヒくども

閉^トづまむ

媚^コぶれども

除^ゾえれども

育^{ソダ}つれむ

答^{コト}ふれども

覺^{オボ}ゆれども

着^キれむ

居^キれど

煮^ニれども

得^ツれむ

寐^ヌれど

歴^ツれども

來^クれむ

為^スれど

○第八轉

押^オせ

行^ユく

賜^{タマ}へ

來 <small>コ</small> よ	得 <small>ツ</small> よ	見 <small>ミ</small> よ	告 <small>ツ</small> ぐよ	下 <small>シ</small> りよ
為 <small>セ</small> よ	寐 <small>ネ</small> よ	煮 <small>ニ</small> よ	改 <small>アラタ</small> めよ	起 <small>オ</small> きよ
	歴 <small>ヒ</small> よ	着 <small>キ</small> よ	與 <small>アタ</small> へよ	閉 <small>ト</small> ぢよ

以上令きる詞

四段變格の用言

變格とをカ上ミよも云イへる如ゴくアリと云イふ言葉コトなり此言葉コトを第ダイ四シ轉テンの云イひ切キる處トコロにてルと云イふずしてリと云イふ総スへて用言ヨウゴンをウ、段ダンよて切キる一イツ体タイの定サマりたるよ、六ロクの阿アリを、段ダンを切キる言葉コトとすはれど其外ソノほかの働ハタラきを常ツネの四段ヨシよ異イなる六ロクとなし六ロクれ即スグち變格カクなり

八轉ハチテンの例レイを示シまると左サの如ゴトし

有らん

有らまゝ

第一轉

有りて

有りぬ

第二轉

馬あり車あり

上のアリも第三轉の假_レ切_ル言禁_ス下_レのアリも第四轉の云_レひ切_ル言禁_ス

第三轉

有り付く

有り合ふ

同轉
動詞_ニ續_ク

有家

有物

有形

同轉
名詞_ニ續_ク

有無

おれも名詞とす者

同轉

山あり

家あり

人あり

第四轉

有るへし

有るまゝし

第五轉

有る事

有る物

第六轉

有るなり

有るまゝで

同轉

有れを

有れど

第七轉

有れ

第八轉

総べて去のアリの言葉と第四轉を云ひ切らば言葉より段を用ゐるのみして其他も常の四段より異なることなり又常の四段の言葉より従ひ付きて去の變格の働きを為さることあり

開けり

隠せり

參れり

連れる路

思へる人

犯せる罪

及へれど

語れど

並へれども

右の如く四段の用言を悉く結び付きて皆此變格の働きを為すはれと第一轉と第三轉と第八轉ハ用ゐらるゝとす
総べて去のアリの結び付きし者も今現在を

より少しく過ぎ去りしことにて開ケリをヒラ
キテアリの約言なりキテを約むれどケとなり
アの字を略けり故に総べての言葉も此例に同
しと知るべし
二段と一言との言葉も此アリの結び付とこ
となしはれも鎮めり添へり杯と誤り用みらるべ
あらば但し下の形言脚言の處に同例あり合せ

俗語の用言

俗語の用言も正語と同じと八轉の働きにして
四段と一段との兩種なり四段も正俗共に同じ
一段も一言の働きと同じとして、一段と
より直ルレを添へて四轉以下の働きを為
者なり
大の俗語も言葉の訛り多とじて又下は受とる
脚言も辭も訛言略言あり次に舉ぐる八轉の下
よおれを説くべし

四段の用言

打ウツとウ

取トルらん

聞キカのカをカ 第一轉

ウモシンの訛

シモ又の訛

ナイモナシの訛

這ハツて

知チツと

云イひヒとヒ

第二轉

聞キイイとイらラ

呼ヨびビとビらラ

書シきキとキらラいイ

問トひヒまマせセらラ

タモタルの略

タラモタラバの略

タイモタシの訛

ソウもセンの轉訛テシクなるべし呼ぶヨふフとト云イふフ疑ウタガハシの意あり
ナサイもナセの延訛チナリ マセウもマセンの訛
又住スンど、止トンで杯ハカの濁音ダクオンを清音セイオンと同じ但上の鼻音ナなる故ユ濁音ダクオンとナなるなり

飯メシをメ焚タき湯ユをユ沸ワのワす

第三轉

云イひヒ聞キらラす

遣ヤりリ込コむ

同轉
動詞に續く

待マテ人ヒト

洗アミミ髪カミ

通カヨヒ路ヂ

同轉
名詞に續く

飲食

出入

讀書

同轉
名詞となる

進む

繕ふ

塞く

第四轉

咄すな

行なま

探るべし

第五轉

返るらーい

ナもナカレの略
ラシイもラシキの訛

マイもマジの訛

行な路

扱ふ物

扱む者

第六轉

買ふのみ

賣るな

聞るめ

飲むけれど

死ぬまで

遣らだらう

書くま

ナラもナラバの略
タラウもデアランの約訛
サウもサマの訛

並へど

締れど

急げど

第七轉

留^{トマ}れ

咄^{ハナ}せよ

歩^{アル}け

第八轉

八轉もヨを添へて云ふなり

四段變格なるアリを俗言もりりて第四轉の

云ひ切る言葉とちるたと正言も同じし

一段の用言

一段も兩種ありイ、段より働を上一段と云ひ

工、段を下一段と云ふ

六の一段の用言も正語の二段なれども其行の

ウ、段も轉らばして一言一音の如く直よルレを

添へて四轉以下の働きをなせり但第八轉もヨ
或も口を添へて用ゆる

落ちな^オい

下り^オよう

盡^{ツク}きん

上一段

止めな^トい

諦^{アキラ}めよう

馴^ナれん

下一段

右第一轉もしてナイとシとの訛を四段も
同じヨウもセンの訛なるべく且四段より
ウと云ふも同じく一段より未來の言葉
なり

詫びて

懲らる

延びる

上一段

呆ま

固める

棄てる

下一段

第二轉は何れも四段子同也

世を忍び身を悔

上一段

紙を揃へ筆を並べる

下一段

下り過ぎる

生を延びる

上一段

調べ替ふる

枯れ果てる

下一段

詫言

落人

朽木

止一段

染物

數日

跳橋

下一段

長生

繩延

恨綻

上一段

水溜

日延

弘詭連

下一段

右も第三轉の四種共よ四段よ同し

生える

試みる

老る

上一段

混ぜる

惶てる

續々る

下一段

右第四轉も正語の一言一音よ同し

下りるな

耻ぢるなへし

上一段

並べらるる

逆々らるる

下一段

右五轉も総へて四段よ同し

借るる書

浴びる湯

上一段

脱れる錠

更なる夜

上一段

盡きるるな

悔ゆるるな

上一段

耐コラへるろぞ

化バるるならう

下一段

右六轉も四段も同じ

起オまきれぞ

綻ホコロびれども

上一段

眺ホカめれど

答コタへれども

下一段

右七轉も正俗共々同じ

起オまきろ

來コいよ

上一段

捨スてるろ

譽ホめろ

下二段

右八轉も心ヨと口とを添って用ゐる

